

公認内部監査人® (CIA) 資格認定試験

試験内容の詳細

パート3 - 内部監査部門

セクション A. 内部監査部門の運営 (25%)

1. 内部監査部門の業務の計画策定、運営、指揮及びモニタリングに関する手法について説明する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 内部監査業務を提供する外部のサービス・プロバイダの管理方法を説明する
 - b. 内部監査業務のモニタリング方法を説明する
 - c. 個々のアシュアランス業務と個々のアドバイザリー業務とのバランスをとる方法を説明する
 - d. 内部監査の手法のレビュー及び改訂を正当化する状況を識別する
2. 内部監査部門における財務的、人的及び情報技術に係る資源の管理について主な活動を説明する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 予算プロセスの主要な手順と考慮すべき事項を概説する
 - b. 人員採用に際しての手順と考慮すべき事項を認識する
 - c. 様々な内部監査チームメンバーの役割と責任を識別する
 - d. 内部監査人の研修、育成及び保持のための戦略を説明する
 - e. 内部監査部門のパフォーマンス管理手法を説明する
 - f. 個々の内部監査業務を実行するためのテクノロジーに係る資源に関する主要な考慮すべき事項を説明する
 - g. 職務設計、報酬、勤務スケジュール、メンタリング、コーチング及び建設的なフィードバックなど、内部監査部門の強化につながる行動や管理手法を認識する
3. 内部監査の戦略をステークホルダーの期待に整合させるために必要な主要な要素を説明する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 内部監査の戦略が組織体の事業戦略とリスク・マネジメントの業務を支援する方法を説明する
 - b. 内部監査部門の使命とビジョン・ステートメントの目的を説明する
 - c. 内部監査資源の計画を内部監査の戦略と整合させる方法を説明する
 - d. 内部監査の戦略のレビュー及び改訂を正当化する状況を識別する



公認内部監査人® (CIA) 資格認定試験

試験内容の詳細

パート3 - 内部監査部門

4. 内部監査部門長が、様々な事項について最高経営者及び取締役会との関係構築とコミュニケーションを図る責任を認識する（以下を含むが、これらに限定されるものではない）
 - a. ステークホルダーとの公式及び非公式なコミュニケーションの重要性を説明する
 - b. 監査計画及びその後の変更を伝達する手続と、組織体の全体戦略とどのように関連しているかを説明する
 - c. 独立性に関する懸念事項及び重大なリスク・エクスポージャーを伝えるための手順を説明する
 - d. 組織体のリスク・マネジメントとコントロールのプロセス全体の有効性を適時報告し、複数の個々の内部監査業務に基づく課題を識別する、内部監査部門長の責任について説明する
 - e. 品質評価の結果、業績評価指標及び必要な改善措置の計画を伝える、内部監査部門長の責任を説明する

セクション B.内部監査の計画 (15%)

1. 実施する可能性のある個々の内部監査業務の情報源を識別する（以下を含むが、これらに限定されるものではない）
 - a. 監査対象領域を定義するプロセスを説明する
 - b. 監査対象領域の主要な構成要素を識別する
 - c. トピック別要求事項の適用可能性を認識する
 - d. 取締役会及び経営管理者の要請を検討するプロセスを説明する
 - e. 適用される法律上や規制上の義務を識別するプロセスを説明する
 - f. 関連する市場や業界の動向、組織体の変化、新たな課題、モノのインターネット、人工知能、ブロックチェーン、デジタル通貨・資産及びロボティック・プロセス・オートメーションなどの新たなテクノロジーを識別するプロセスを説明する
 - g. 監査周期に関する要求事項の理由を説明する
2. リスク・ベースの監査計画を策定するプロセスを説明する（以下を含むが、これらに限定されるものではない）
 - a. リスク評価の手法及び優先順位付けを説明する
 - b. 監査計画を組織体の戦略、内部監査の戦略及びステークホルダーの期待と整合させるためのプロセスを説明する
 - c. 動的な監査計画を維持するために、適時に更新する必要がある状況を認識する



公認内部監査人® (CIA) 資格認定試験

試験内容の詳細

パート3 - 内部監査部門

3. 内部監査人が他のアシュアランス・プロバイダと連携し、その業務を活用することの重要性を認識する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 内部及び外部のアシュアランス・プロバイダを識別する
 - b. アシュアランス範囲を調整する例とその方法を識別する
 - c. アシュアランス・プロバイダを評価し、その業務に依拠する能力を判断する規準を識別する

セクション c. 内部監査部門の品質 (15%)

1. 品質のアシュアランスと改善のプログラムの要件について説明する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 品質のアシュアランスの主な構成要素を認識する
 - b. トピック別要求事項の適用可能性を認識する
 - c. 品質のアシュアランスと改善のプログラムの目的を説明する
 - d. 品質のアシュアランスと改善のプログラムの結果を取締役に伝える内部監査部門長の責任を認識する
 - e. 内部評価と外部評価の要素を比較する
 - f. 品質評価者の適格性を認識する
 - g. 継続的モニタリング及び定期的自己評価の主要な要素を説明する
2. 「グローバル内部監査基準」への不適合に関して適切な開示を識別する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 状況、とられた措置、当該措置の影響及び不適合の根拠など、コミュニケーションをとるべき情報を識別する
 - b. 不適合を最高経営者及び取締役に伝達するための主な手順を説明する
3. 内部監査部門長が最高経営者や取締役に伝達する、内部監査の重要業績評価指標やスコアカード指標を設定するための、実用的な方法を認識する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 重要業績評価指標の目的を識別する
 - b. 業績評価指標を設定する際の主な考慮すべき事項と、目標を設定する必要性を識別する



公認内部監査人® (CIA) 資格認定試験

試験内容の詳細

パート3 - 内部監査部門

- c. 定性的及び定量的業績評価指標の両方の利点を認識する
- d. 財務、業務、品質、生産性、効率性及び有効性など、内部監査部門の業績評価指標を分析する

セクションD.個々の内部監査業務の結果とモニタリング (45%)

1. 個々の内部監査業務の結果のコミュニケーションの特性を認識する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 個々の内部監査業務の最終的な結果のコミュニケーションにおける、正確、客観的、明確、簡潔、建設的、完全及び適時などの用語を定義する
 - b. 個々の内部監査業務の結果のコミュニケーションにおいて、これらの特性の適用を認識する
 - c. 効果的なコミュニケーションの手法を識別する
2. 個々の内部監査業務の結果において効果的なコミュニケーションを発揮する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 目標、範囲、結論及び改善のための提言及び改善措置の計画など、監査報告書の主要な構成要素について説明する
 - b. 個々の内部監査業務の結果の最終的なコミュニケーションにおいて「グローバル内部監査基準」に適合して実施されたと記載することが受容できる場合を認識する
 - c. 範囲の制約を文書化する必要がある場合を識別する
3. 改善のための提言を作成するのか、経営管理者に改善措置の計画を要請するのか、又は経営管理者と協力するかを決定する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 個々の内部監査業務の発見事項及び計画の策定について、経営管理者と意見が相違する場合の、内部監査人の適切な手続を認識する
 - b. 費用便益分析の検討を含め、改善のための提言及び改善措置の計画の目的を認識する
 - c. 改善措置の計画が発見事項の根本原因に適切に対処しているかどうかを判断する
4. 個々の内部監査業務における終了時のコミュニケーションと報告のプロセスを説明する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 終了時のコミュニケーション (イグジット・コンファレンス) の目的と対象者を説明する
 - b. 最終的なコミュニケーション及び報告をステークホルダーに示す、内部監査部門長の責任を認識する



公認内部監査人® (CIA) 資格認定試験

試験内容の詳細

パート3 - 内部監査部門

<ul style="list-style-type: none">c. レビュー対象の活動の経営責任者、最高経営者、取締役会、リスク・マネジメント部門、外部監査人、規制当局及び一般市民など、異なるステークホルダーとの様々なコミュニケーションの目的を認識するd. 経営管理者が既に解決した発見事項を報告する際の、適切な手続を認識するe. 最終的なコミュニケーションにおける重大な誤謬および脱漏を訂正するための、内部監査部門長の責任及び手順を説明する
<p>5. 個々の内部監査業務における残余リスクの評価に関する内部監査部門長の責任を説明する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)</p> <ul style="list-style-type: none">a. 既存のコントロールの整備状況の妥当性と有効性から評価し、残余リスクのレベルを測定する手法を認識するb. 発見事項を集約し、優先順位を付ける目的を説明するc. 個々の内部監査業務のコントロールの総合的な評価を反映するために、評価尺度を使用する目的を説明する
<p>6. リスクの受容についてのコミュニケーション・プロセスを説明する (経営管理者が組織体にとって受容できないレベルのリスクを受け入れた場合) (以下を含むが、これらに限定されるものではない)</p> <ul style="list-style-type: none">a. リスクが組織体にとって受容できないものかどうかを判断する方法を認識するb. リスクの受容についてのコミュニケーションに適切な関係者を認識するc. リスクの受容についてのコミュニケーションの適切な手順を認識する
<p>7. 経営管理者の改善措置の計画の実施状況をモニタリング及び確認するプロセスを説明する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)</p> <ul style="list-style-type: none">a. 経営管理者の改善措置のフォローアップと追跡に対する内部監査部門の責任を認識するb. 経営管理者の改善措置の計画をモニタリングし、確認するための主要なステップを区別する
<p>8. 経営管理者の改善措置が適切に実施されなかった場合の報告のプロセスを説明する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)</p> <ul style="list-style-type: none">a. 報告のプロセスに関連する適切な関係者を認識するb. 報告のプロセスの適切な一連のステップを認識する

